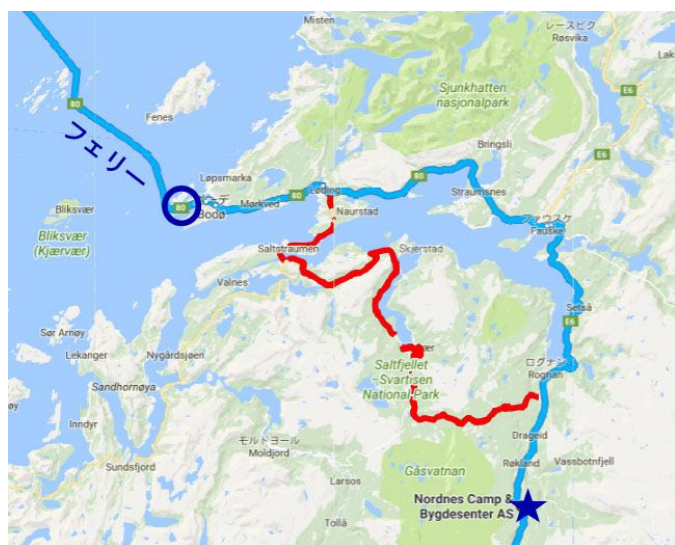


「北極圏旅行記 2017 夏 (11)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 ミスヴァール・フィヨルドからボーデへ～

ノードネスのキャンプ場のキャビンから、港街ボーデ (BODØ) まではちょうど 100km ほどである。ボーデ港から、今回の主目的地であるロフォーテン諸島行きのフェリーが出ているのだ。普通に国道を行けば、2 時間弱で到着できる。しかし予約したフェリーは午前 11 時発で、少し時間があつたので、フィヨルド沿岸の村を經由し、ちょっと遠回りをすることにした。



★がノードネスキャンプで、○がボーデ港である。
—— がもともと予定していた国道ルート(普通の人はこちを通る)、—— が今回通った「田舎道」である。たぶん、日本人旅行者が自動車で通過するのは初だろう。別に快挙でも何でもないが・・・。



この道に多いのは**羊**。とにかく**羊、羊、羊**！



「ヒツジの横断に注意」の標識はあつたので、注意をしてはいたのだが、これは「横断」とは言わない。「滞在」という。それも 1 頭や 2 頭ではなく、3 ダースか 4 ダースの大群だ。周囲に寝心地の良さそうな草地がたくさんあるのに、なぜか道が好きなようだ。



こういう、ヒツジにあるまじき寝たかをしている者もいる。まあノルウェーのヒツジは実に幸せそうだ。



この道は一つ小さな峠を越える。峠といっても海拔 300m 程度である。しかし緯度が高いので、ほんの少

し標高が高くなるだけで、あっという間に森林限界になり、景観も一変する。



こんな場所にも Stugo (小屋) はある。この丘の上の一軒家には心ひかれた。たぶん別荘だろう。



峠を越えた直後、スイスのアルムのような風景が目に飛びこんできた。日本だったら、ここにドライブインやホテルが林立し、大観光地になっているだろう。



その後も羊の群れに阻まれながら、フィヨルドに向かって下降していった。やがて、ミスヴァール・フィ

ヨルドの一番湾奥のモーヌス (Monus) という美しい村が見えてきた。ノルウェーの海岸線には、こういう風景がいたるところに点在している。



小さな村なので、教会も小ぶりだ。さまざまな掲示物が貼ってあった。村の集会所も兼ねているようだ。



静かなミスヴァール・フィヨルドの海岸線。湖のように見えるが、これでも海である。



やがてボーデの街に入った。3車線の中央を、時間帯によって方向を制限している。「永代橋方式」だ。